

定例選挙管理委員会会議録要旨

日 時	令和7年2月 10 日(月)	午前9時 55 分
場 所	横浜市選挙管理委員会室	
出席者	吉原委員長、和田委員長職務代理者、森委員、藤代委員	
	武島事務局長、石川選挙部長、廣澤選挙課長、古川調査課長	
	須藤庶務係長、遠藤選挙係長、代田調査係長、田村啓発係長	
	間宮専任職、宗仲職員	

議 事

1 議案

- (1) 横浜市議会議員南区選挙区補欠選挙において当選人と決定した者の住所及び氏名について (案)

委員全員：異議なし

- (2) 「横浜市選挙管理委員会情報通信技術を活用した行政の推進等に関する条例施行規程」の一部改正について

委員全員：異議なし

- (3) 令和7年度横浜市選挙管理委員会啓発事業方針 (案) について

《主な発言》

委 員：地元の商店街と協力した「センキョ割」のような取組を市選管では把握しているのか。投票証明書を持参することで割引サービス等を受けられるという声を市民からよく聞くが、幅広い世代を対象とした啓発事業になるのではないか。

事務局：市選管は関与しておらず、民間の自発的な活動であると理解している。

選管として投票に行ったことに対して特典を与えるような行為は、難しいところがある。今回初めて投票証明書にキャラクターを印刷したが、その

ような工夫が限界だと考えている。

委員長：若い世代を対象とした啓発事業として、小・中学校向けに投票体験・出前授業などの開催をしたり、高等学校における参議院選挙と連動した模擬選挙の実施をするとあるが、それぞれの違いは何か。

事務局：対象年齢に応じて分けている。小学生は「デザート選挙」で決まった給食を実際に出してもらうことで、自分の思いが形になることを体験する。中学生は生徒会選挙、高校生は実際の政党名を使ったリアルな模擬選挙を実施し、選挙の意義や仕組みを学ぶ。市立高校での模擬選挙の取組が遅れていたが、次年度は先生方と調整して実施する予定である。

委員長：高校3年生だと既に選挙権を持っている。中学3年生くらいで高校生を対象にしている取組を実施しても良いのではないか。

委員：早ければ早いほど良いと思う。

《 原案のとおり決定 》

2 報告事項

(1) 令和6年度指定都市選挙管理委員会連合会役員会議結果について

委員全員：異議なし

《 報告のとおり了承 》

3 その他

(1) 令和7年2月9日執行の横浜市議会議員南区選挙区補欠選挙結果表について報告した。

(2) 参議院議員通常選挙及び横浜市長選挙の日程の法律上の考え方について報告した。

《主な発言》

委員：南区補欠選挙の結果表にある無効票とは白票のことか。

事務局：無効票の内訳は、白紙投票が648票、単に雑事を記載したものが175票、単に記号、符号を記載したものが129票などとなっている。

委員：当日は午後4時の投票中間速報を確認したが、それ以降に投票者数が意外

と増えた印象である。

事務局：最後に期日前投票率（6.7%）が加わった影響もある。期日前投票以外では、不在者投票分も投票確定値に反映されている。

委 員：白票が多かったのは、自民党や公明党の候補者が出ていなかったことが大きかったからではないか。

事務局：無効投票率は統一地方選挙より今回の補欠選挙の方が若干高かった。

『 説 明 の と お り 了 承 』